

談話室



春名幹男氏 「どうなる米国・トランプ政権と朝鮮半島情勢」

概要と所感

松井和明

1 総じて講師は米国情報に強く、改めて、新情報や情報の裏付けが確認できた

- ・ 火星 15号の弾頭が 대기圈への再突入時に燃え尽きており、ICBMが完成とはいえないこと。
- ・ リビアは核兵器の完成能力がなく設計図は中国製であり、パキスタンを経てリビアに渡った。
- ・ 国務長官の乗る「エアホース」に記者として搭乗を許され、米ソ核軍縮に絡むミサイル工場の査察には相互に査察員を常駐させる必要があるとのスクープをものにしたこと。
- ・ 94年の米朝「核枠組み合意」は Agreement (議会承認を受けた協定)ではなく Framework of Agreement (合意のための枠組み)に

過ぎなかつたこと。

・ 金大中誘拐事件には日本の元自衛官の金大中所在場所情報が使われたこと。

・ オバマ政権は、北朝鮮はいずれ崩壊するとみて、北の核を放置するという失敗を犯してきた。

・ 金正恩になってそれまで失敗だらけのミサイルが成功を重ねるようになったのには、ウクライナの技術入手がある。

・ 国防総省は軍産複合体であり、武器の増強意欲が強く、北の兵器保有量の推定も大きくなる。

・ 08年の「6カ国協議の合意」で原子炉を爆破したが、一年で再建、今回の実験場爆破も早期に再建可能と見る。

2 米朝が対話路線に切り替えた理由、核査察の難しさ、会談の行方は樂觀できない

・ トランプは、戦争は出来ないという対話路線に切り替え、民間資本を使い、北の経済開発にも関与する姿勢。一方、度胸が良く、手強いといわれる金正恩は、核戦力は完成、これからは経済」との新年の辞。これで米国に対話路線となると予測させた。正恩は、金・タングステンなど資源ほか現在、北の経済を握る中国を米国と天秤にか

け牽制しようとする意図と見る。

・ 核兵器の数、格納場所も不明、関連ビル4百カ所、7万人を要する査察人員など、といわれる中、

・ 廃棄を何年で、具体的に、どう進めるのか、6月12日までにまとめられるとは思われない。

・ 米朝会談では、廃棄の基本方針、期間など「枠組み合意」程度しか出来ないのではないか。

3 日本政府は米朝の方針転換に気づかず、蚊帳の外に置かれ、経済にも関与出来ない状況

・ 平昌オリンピックが重要な転機であった。ペンス副大統領が密命を受け、金与正と会談予定であったが、北にドタキャンされた。ペンスは帰国時に「圧力も対話も」に変わったと語っていたという。

・ 金与正は韓国の文在寅大統領に正恩の南北会談を開催したいとの親書を手渡したが、文は「米朝会談が前提」と保留。文はトランプに特使を派遣、トランプは米朝会談開催を即決した。

・ 日本は、谷内正太郎国家安全保障局長―マクマスター補佐官という固定したチャネルに安住、CIAポン・ヘオ長官とのパイプ作りが出来ていなかった。ポン・ヘオは、CIA「リア・ミッション・センター」を作り、

韓国系アメリカ人を重用、韓国情報機関とも親しいという。日本

は、中距離ミサイルの帰趨、在韓米軍の撤収如何など、自らの安全保障の帰趨がどうなるか、かつての領土の経済開発にも関与できず、

全ての点で、蚊帳の外にあり、事態のキャッチ・アップが出来ていない。

4 イラン、イスラエル動向、IR (統合型リゾート) 法案・カジノの推進者

・ 米国のイランとの核合意離脱は、米国が基本的にイスラエルに引つ張られているため。イスラエルはイランのレジーム・チェンジを狙っており、極めて危険な事態である。

・ エルサレムへ「首都宣言」、米大使館の移動は、トランプの周囲にシオニストが多いこと、その中にラスベガス・サンズグループCEO、S・エーデルソンがいる。エーデルソンは、日本のカジノに「兆円投資」を宣言しているという。IR法案はトランプに親しい意外な推進者がいるようだ。以上 (39 卒)





『君たちはどう生きるか』

— なぜ読よまれるのか

慈海

ベストセラー… 漫画『君たちはどう生きるか』(羽賀翔一著 2017年(マガジンハウス)がベストセラーになり、発行部数は2百万部を越えた。原著は知識人・吉野源三郎による80年前(昭和12年)の著作である。漫画版で読み易くなっているようだが、読者は中高生を中心に大学生にまで拡がっている。小6の孫も同級生2、3人が読んでいてという。つれて、原著もブームとなり売れている。なぜ、今この本が若い人たちに幅広く求められているのだろうか。以下は、原著を読んだ感想である。

本書の内容： 「純な心」を持つ 中学生「コペル君」が主人公。学校や日常生活の中で、自分という存在、友人たち、自然や社会や経済について学び、体験を積み、身近な叔父さんの助言を

得、「立派な人間となる生き方、自分に恥じない生き方」を追求、成長していく姿を描いている。しかし、なんといつでも主なテーマは、友情である。「雪の日」、コペル君は、親友たちとの約束を裏切り、卑劣な自分に苦しみ抜く。読者も「君ならどうするのか」と厳しく問われることになる。

著者のこと： 原著 『君たちはどう生きるか』は、山本有三が編纂する『日本少国民文庫』全十六巻 最後の配本、盧溝橋事件が起きた37年7月に発行。山本は教養小説(独語 Bildungsnovell)が語源、主人公の自己形成の発展過程を描く小説)で有名。軍国主義化が進む中、次世代を担う少年少女に自由な精神や文化を守りたいと企画したもの。著者 吉野源三郎は、進歩的知識人として知られ、『岩波新書』の創刊、『世界』の初代編集者である。本書は山本の教養小説の範疇に入る。

教養小説： 山本有三は、著書 『真実一路』、『路傍の石』などで知られる。人生に真つ直ぐに立ち向かつていく姿勢に共感、自分の郷里に近いこともあり、中学時代、山本に傾注した。呉服屋に丁稚奉公して苦労を重ねた経験を書いた『路傍の石』を読み、自

分も中卒後、益子焼の職人に弟子入りする決意を固めていた時期もあった。本書が売れるのは、まず多感な時期にある若い人たちが、「真摯な生き方を貫き」、「人格を形成していく」この教養小説に共感することがあげられる。

友情と勇気： それ以上に若い人たちが惹かれるのは、漱石や久米正雄などに見る如く、文学でも普遍的な「友情」が主なテーマとなっていることである。コペル君が、雪の日、**暴力と戦う勇気**が出せなかつたために、親友たちと「緒に戦う」という誓いを守れず、友情も破綻。数ヶ月、体調も壊し苦しみ抜くが、叔父さんの厳しい指摘もあり、率直に自分をさらすという心情を持てるに至り、詫びるとい**う弱さを認める勇気**を発揮できて、友情を取り戻す。「君ならどうする」と問われることになる。

(39 卒)

